

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2022.6

vol.194

鹿児島医療センター

AIS新聞

Vol.2, Ver.1

AIS:acute ischemic stroke
急性虚血性脳卒中

ペプタメンAF+
アイソカルサ
ポートという経
腸栄養剤を用い
たプロトコル
について今回は
紹介したいと思います。



経管栄養プロトコール



監修: 小野寺 英孝 先生 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 脳神経外科)

早期の集中的な栄養管理に 高たんぱく質含有 消化態栄養

消化吸収に優れた
乳清(ホエイ)ペプチド

高たんぱく質
(エネルギー比: 25%)

EPA・DHA

MCT
(中鎖脂肪酸油)

炭水化物
(エネルギー比: 35%)

1.5kcal/mlの
高濃度

300kcal/200ml

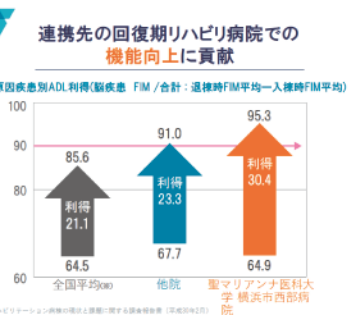
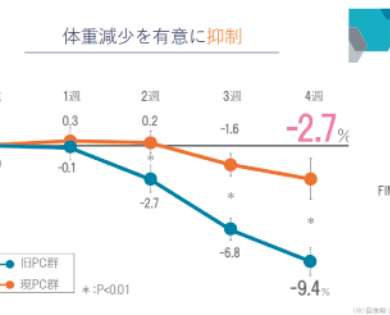
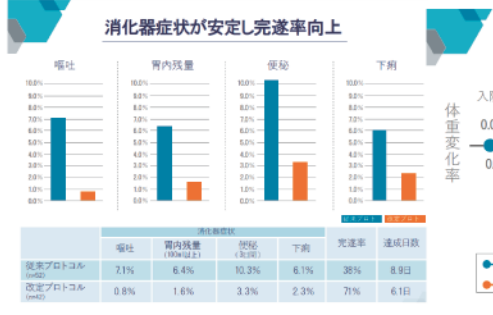
アイソカルサポートシリーズ

- 水溶性食物繊維(PHGG)
- 高濃度(1.5kcal/ml)タイプ

おなかの状態が気になり、
トランジットコントロールが必要。

水分制限が必要。

胃のボリュームが小さい。



- ・脳卒中後の意識障害、嚥下障害の影響で経管栄養を余儀なくされる患者さまは少なくありません。
- ・後遺症を少しでも減らすためには、外科的・内科的治療や薬物治療、リハビリテーションが大事なのはさることながら、栄養管理も非常に重要であることが最近わかってきています。
- ・このペプタメンAF+アイソカルサポートのプロトコールは上記にお示した通り、脳卒中患者さまの経管栄養中の嘔吐や下痢を減少させただけでなく、機能改善にも寄与したエビデンスのあるプロトコールです。
- ・院内のフレキシブルパスの中にもプロトコールを作っているので、他科でも寝たきりや、経管栄養を余儀なくされる方がいましたら、是非使用をご検討ください。

(文責: 脳血管内科 濱田 祐樹) 質問や掲載してほしい内容などあればいつでもご連絡ください。

研修医の声



坂江 卓哉

初めまして。4月より鹿児島医療センターで初期研修医をさせて頂いております坂江卓哉と申します。生まれも育ちも鹿児島で、故郷で医師としてスタート出来たことに嬉しく思います。

4月からの2か月間は脳血管内科で研修させて頂いております。救外対応やカルテ操作、採血やルート確保等の手技、机に向かっているだけでは学べなかった知識と学ぶことが多いと実感しております。自分の未熟さを痛感する日々ですが、指導医の先生方をはじめ、2年目の先輩方、コメディカルの方々に経験する場を与えていただき、優しく教えていただいているおかげで、少しずつできることも増え、充実した毎日を過ごせています。

ご迷惑をお掛けすることが多々あると思いますが、何事にも全力でチャレンジして、医療従事者として成長し、1日でも早く皆様のお役に立てるように精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



坂田 雅道

はじめまして。4月から鹿児島医療センターで研修医として働かせていただいております、坂田雅道と申します。出身は栃木県ですが大学から鹿児島に来て、医療人として貢献したいと思い、鹿児島で働くことを決意しました。現在、第二循環器内科で勉強させていただいております。手技、病棟業務、救急対応など慣れないことばかりですが、指導医の先生、2年目の先輩方に丁寧に教えていただいております。最初は、何もかもできない状態で、絶望しておりましたが、最近ではできることが増えて、達成感に変わりつつあります。

まだまだ至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、一日でも早く皆様のお役に立てるように精一杯努力致しますので、今後ともよろしくお願い致します。



白石 ゆり

はじめまして。鹿児島医療センター研修医1年目の白石ゆりと申します。よろしくお願い致します。出身は鹿児島市です。山口大学を卒業して地元鹿児島に帰ってきました。4月、5月は脳血管内科を回らせていただいている、先生方のご指導のもと、急患対応を学んだり病棟の患者さまを担当させていただいたりしております。急患対応はとても緊張感があり、私は焦ってしまいますが、先生方はいつも落ち着いて的確な医療を提供されていて圧倒されることが多いです。回診は患者さまの毎日の変化に向き合うことができる貴重な機会、「回復されるように頑張らない」と思います。指導医の先生方や2年目の先輩方が濃やかにご指導くださることに感謝しています。現状はまだ未熟な自分でご迷惑をおかけすることも多く、たくさんフォローしていただいておりますが、日々向上していけるように研鑽を積んで参りたいと思います。これからどうぞよろしくお願い致します。



鶴園 尚史

初めまして。今年4月から鹿児島医療センターで研修をさせて頂いております、鶴園尚史と申します。現在、私は脳血管内科で研修をさせて頂いております。

研修医の生活は長い学生生活を過ごしてきた私にとって慣れない環境でありました。しかし、さまざまな先生方と先輩方の丁寧で親切なご指導のおかげで、今では少しばかり手技や知識を身につけ、ほんの少しではありますが自信がつかってきました。患者さまを通して学ぶことも多く、充実した日々を過ごしています。

私は生まれた時からずっと鹿児島に住んでおり、この鹿児島に夢であった医師として携われることに喜びを感じています。私は学生になる前に五年間の浪人生活を経験しており、社会人になるまでに両親にたくさんの迷惑をかけてきました。これから鹿児島の人々のために経験と努力を重ね、立派な医師を目指して頑張っていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



寺原 真咲

初めまして。4月から鹿児島医療センターで研修させて頂いております、寺原真咲と申します。生まれ育った鹿児島の医療に携わることを目標にしてきたので、この病院で働くことができ大変嬉しく

思っております。

4、5月は第一循環器内科で研修をさせて頂いております。カルテ書き、オーダー、採血といった基本的なことからは分らず、1つ1つ教えていただいております。

座学で学んだ知識をアウトプットする大変さ、患者さまと接する時や手技時の緊張など今まで経験したことのない日々で毎日自分の力不足を実感しています。指導医の先生をはじめ、医局の先生方、2年目の先生方など、周りの方が優しく丁寧に教えて下さるので小さな疑問も聞きやすく大変ありがたい環境です。5月からは当直も始まります。1つ1つ自分にできることを着実に増やして、医師として成長できるよう精進していきたいです。研修の中で至らぬ点もありご迷惑をおかけすることもあると思いますが、精一杯努力いたしますので2年間よろしくお願い致します。



富山 高至

今年度から鹿児島医療センターで臨床研修医として勤務させて頂いております、富山高至と申します。4、5月は第二循環器内科で研修させて頂いております。第2循環器内科では心臓カテーテル

やR1でのルート確保などの手技や循環器疾患の急性期から慢性期の管理など多くのことを勉強させていただき、充実した研修をさせて頂いております。右も左もわからないまま始まった研修ですが、指導医の先生や2年目の先輩方、医療スタッフの皆様にご指導いただき大変感謝しております。少しずつですが、できること・わかることが増えていくのを実感しております。研修が始まって1か月がたちますが、まだまだ未熟なところが多く、自分の力不足を日々痛感しております。ご迷惑をおかけすることも多いとは思いますが、一日も早く皆様のお役にたてるよう日々精進して参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



中村 崇仁

初めまして。4月から鹿児島医療センターで研修をさせていただいています中村崇仁と申します。4月から2ヶ月間、麻酔科で研修をさせていただいています。私は県外の大学を卒業し、まだ慣れないことも多く、先生方やコメディカルの方々から沢山ご指導していただき、また患者さまを通してからも多くのことを学び、充実した日々を過ごしています。少しずつですが自分なりに勉強して、なぜこういった投薬を行っているのか、また手技の習熟をする過程でそもそもなぜその手技を行うのかを理解するよう努めています。大学で学んだ座学からは自分で発見できなかった実臨床ならではの疑問を日々感じています。先生やコメディカルの方が優しく丁寧に教えてくださいます。医師として、未熟であることは百も承知ですがこの2年間で多くを学び将来に生かしていけるよう、同期と共に切磋琢磨し日々精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



増田 愛子

初めまして。4月から鹿児島医療センターで研修医1年目として勤務しております、増田愛子と申します。出身高校は志学館高等部、大学は鹿児島大学です。4月からは第一循環器内科で研修させていただいており、病棟業務や基本的手技、救急対応などを経験でき忙しくも充実した毎日を送らせていただいております。自分の医師・社会人としての未熟さを痛感する日々ですが、素晴らしい上級医の先生方、スタッフの皆様、先輩方、同期のお陰で少しずつ出来ることが増え成長の手応えを感じています。感謝の気持ちを忘れずに、一つ一つの経験を糧に日々努力していきたいと思っております。至らない点も多々あり、ご迷惑をおかけすることも多いことと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



橋口 祐樹

4月より臨床研修医として働いております、福岡大学出身の橋口祐樹と申します。研修医生活が始まり早くも一か月が経ちましたが、学生時代には得られなかった学びを多く実感しております。それでもまだ臨床の右も左もわからぬ状態です。患者さまの診方や専門的な知識を教えてください先生方や未熟な私を支えてくださる多職種の方々には日々感謝しております。ここで得られる経験を糧にして日々成長できるよう努力してまいります。また現在日本及び鹿児島は新型コロナウイルス感染症や2025年問題など、様々な医療の難題に直面しております。その中で今後医師に求められることは何かを考えながら患者さまと向き合っていきたいと思っております。この二年間の研修を通してこれからの医師としての土台を築き、よき医師になることを目指して取り組んでまいります。今後ともよろしくお願い致します。



宮崎 研斗

令和4年度から初期臨床研修医として2年間お世話になる宮崎研斗と申します。福岡出身で大学から鹿児島で生活しており、鹿児島の人や街並み、美味しい食べ物や暖かい気候が大好きになりました。大好きになった鹿児島の地で医師としてのキャリアをスタートできてうれしく思っています。入職して最初の半年間は、循環器内科、麻酔科、脳血管内科で研修させて頂きます。働き始めて、右も左も何なら真ん中すらわからないところを、周りの先生方やスタッフの方々に導いていただき、日々成長し続けていると感じています。また、研修医の同期たち、先輩方からは多くの良い影響を受けて、楽しく刺激的な毎日を送っています。駆け出し研修医として、未熟な点が多いかと思いますが、一日でも早く一人前の医師になれるように努力してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。



新任
紹介



歯科口腔外科
木村 菜美子

2022年5月より鹿児島大学口腔顎顔面外科より歯科口腔外科へ赴任しました。2020年度まで当歯科口腔外科で勤務しておりましたので、約1年ぶりの勤務になります。鹿児島医療センターでは、周術期口腔管理の重要性をご理解いただいておりますので、とても働きやすい環境だと感じております。口腔に関するお困りごとなどありましたら気軽にお声かけいただければと思います。各科の先生方やスタッフの皆さんにご協力いただきながら、一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。



職場紹介

【西3階病棟】

西3階病棟は、耳鼻咽喉科・腫瘍内科の混合病棟であり、一般病棟50床の病棟です。主な疾患として、耳鼻咽喉科では、喉頭癌や甲状腺腫瘍、耳下腺腫瘍、突発性難聴、顔面神経麻痺などであり、腫瘍内科は固形がん全般、血液がんの一部が対象となります。治療は、耳鼻咽喉科では腫瘍に対する摘出手術、突発性難聴や顔面神経麻痺に対しては点滴治療を行っています。また、耳鼻咽喉科・腫瘍内科共通して化学療法、放射線療法等のがん治療、緩和治療も行っています。

看護については、病気の告知、治療方針決定における意思決定時より患者さま・ご家族の思いに寄り添い安心して治療を受けられるよう入院前支援を行っています。耳鼻咽喉科領域の手術によりボディーイメージの変調を余儀なくされる患者さまや喉頭摘出により失声を強いられる患者さまに対し、自己を受け入れながら退院後の生活ができるように多職種と連携をとりながら関わっています。耳鼻咽喉科において、放射線化学療法を受ける患者さまに対しては、入院後すぐに胃ろう造設が行われます。多くの場合、治療回数が進む毎に食事摂取が難しくなるため、栄養士と情報共有しながら栄養管理を行い、自宅でも胃ろうの自己管理ができるように患者さまの身体状況に合わせながらの手技を指導しています。耳鼻咽喉科、腫瘍内科それぞれの医師と週に1回患者カンファレンスを行い、現状や治療方針、今後の目標について話し合いを行っています。各科ともに30～40代の患者さまも多いため、その年代や家族背景を考慮しながら、患者さまの思いを尊重した関わりを行っています。また、全人的苦痛の緩和を目標に、緩和ケアチームと連携を図りながら看護を提供しています。病棟に配置されている、緩和ケア認定看護師が実践モデルとなりスタッフ指導を行いながら、質の高い看護を実践しています。

(文責：看護師長 青山 綾子)



▲耳鼻科カンファレンス



▲注入準備

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

メディカルサポートセンター

地域連携室専用FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

